



教育ヴィジョン研究センター定例オンラインセミナー講演会No.64

ポスト・コロナの学校教育 (7)

ポスト・コロナの学校教育 に要請される数理的思考

■ 日時

2021 1.23 (土)

14:00-15:30

ZOOM
オンライン会議

■ スケジュール

1. 趣旨説明
2. 日本学術会議数理科学委員会数学教育分科会「提言」
(令和2年8月4日公表) について
3. 講演1: コロナ禍を生き抜くための確率的思考
4. 講演2: コロナ禍で要請された数学の利活用
5. 閉会の言葉

影山 和也 (広島大学)

小山 正孝 (広島大学)

石橋 一昂 (岡山大学)

早田透 (鳴門教育大学)

影山 和也 (広島大学)

感染症の拡大は世界史的に見れば決して新しいことではなく、未知であるはずのCOVID-19に対しても人類は、様々な指標、表やグラフ、シミュレーションを通してその理解に努め、意思決定を行っています。その反面、これらがメディアによってメッセージとともに個々の市民に向けて発信されるとき、理解や意思決定の重要な局面が抜け落ち、メッセージを指示として無批判に受け入れる空気が醸成される危険性もあります。指標等の意味や意義をある程度以上に利活用でき、判断の根拠にできる(これを本セミナーでは数理的思考と呼びます)ことが当の市民に備わっていることが、未知のCOVID-19をも現象の一つとして客観的に捉えることにつながるでしょう。では「学校はこうした情勢に耐えられるだけの教育の機会を提供できているのか?」という反省が本セミナーの動機です。そこで、確率的思考と数学の利活用を鍵として、現状の数理科学系教育の居場所と今後の期待を考えていきます。

■ 主催

令和2年度広島大学教育学部共同研究プロジェクト

「「ポストコロナの学校教育」の提起する学術知競争の可能性と課題」、
広島大学教育ヴィジョン研究センター (EVRI)

■ お問い合わせ先

教育ヴィジョン研究センター (EVRI)



Tel & Fax : 082-424-5265 Email : evri-info@hiroshima-u.ac.jp

QRコード等からお申し込みいただけます

お申し込み後にオンライン会議に必要な情報をご連絡いたします